

情報通信利活用先進地域「奥能登」を目指す調査研究会
第一回会合議事要旨（案）

1 日時：平成 22 年 12 月 22 日（水）14：00～16：00

2 開催場所：奥能登総合事務所 第 41 会議室

3 出席者（敬称略）

（1）構成員

金谷（座長）、大藪（副座長）、宮坂（梶代理）、泉谷、持木、石川、植村、倉知、里谷、重政、本間、田作（高羽代理）、牧野、西坂（中嶋代理）、寺島（和布浦代理）、福田（金岡代理）、廣兼、吉満、中川（佃代理）、河合、西川（松原代理）、山崎（細野代理）、石丸（南代理）、松嶋（饗庭代理）、伊藤

（2）事務局

総務省 北陸総合通信局

斉藤、中間、綿谷、中野

アライド・ブレインズ株式会社

内田

4 配布資料

資料 1-1 構成員名簿

資料 1-2 設置要綱（案）

資料 1-3 全体スケジュール（案）

資料 1-4 奥能登地域の社会的課題の検討

資料 1-5 奥能登地域の課題解決に資する ICT 利活用事例の検討

資料 1-6 エリアワンセグ実証実験プランの検討

資料 1-7 今後の検討に向けた提案の募集

資料 1-8 今後の取組とご協力をお願い

5 議事概要

（1）開会

（2）北陸総合通信局長挨拶

（3）構成員紹介

（4）配布資料確認

（5）議事

① 設置要綱及び全体スケジュールの承認

（事務局から資料1-2, 1-3に基づき説明）

質問・意見

(質問)

目的等は理解できるが、実証実験のテーマが「観光情報等のエリアワンセグ実証実験」となっているのは、色々な課題の中で観光情報に絞り込んで実施するということなのか、今後議論する機会があるのか。

(事務局回答)

利用者からの要望も強いということで観光情報を案として掲げているが、色々ご提案いただきたい。今回の実証実験に間に合わない場合は4月以降も含めて、色々なことを検討できればと考えている。

② 座長の選出、副座長の指名

座長は大阪大学金谷教授、副座長は金沢星稜大学大藪教授

③ 奥能登における社会的課題の調査・分析について

(事務局から資料1-4に基づき説明)

④ 課題解決に資するICT利活用成功事例の調査・分析について

(事務局から資料1-5に基づき説明)

質問・意見

(意見)

医療の問題では奥能登地域全体が高齢化・人口減に加えて医師不足ということで、従来目線の延長線上では解決出来ず、違う形のモデルを持ち込まないといけないだろう。幸い能登北部の医師会は一本化されているが、電子化されていない公立病院もあるなど、整備も必要。今後、病院長や医師会の意見等も取りまとめつつ議論させていただきたい。

(意見)

事例として紹介された太宰治の例については、能登・加賀全域に展開するための検討を行っているところ。現地に見学に行つてヒントを得たのは、観光団体同士が、行政主導ではなく横連携している点である。観光も立派な産業であり、今回の検討でも横連携することによって面で観光客を誘客することができればと考える。

(意見)

もちろん観光も含め、新しい地域産業の育成を図っていく必要があるが、長年観光に携わつてきて、最終的にはやはり若者が定住してくれてこそ本当の意味で能登が再生できるのだと考える。過渡的に観光客の誘致を検討するのはよいが、安易にそれに走つてはいけないのではないか。人が住みたいと思つて集まってくるようなところでないと若者は居つかない。高付加価値のモノがどうやったら生産できるのか、といったことも考える必要がある。

(意見)

ICTの国際競争力における日本の地位は17位という調査もあり、ICTの整備は進んでいる

が、利活用という面ではそれほど使われておらず、逆にまだ余地がある。

⑤ 実証実験について

(事務局から資料1-6に基づき説明)

質問・意見

(質問)

観光情報が非常に大事であるという点に異論はないが、スケジュール的に、観光客が一番少ない時期に観光客向けの実証実験をしても検証が難しいのではないかと。

(事務局回答)

確かに条件的には厳しいが、この時期奥能登では色々な食のイベントが開催されるということなので、それらとうまく連携させる形で実施できればと考えている。

(意見)

観光客が現地で一番欲しいのは「生の情報」ではないか。時刻表や天気、服装の情報など、トータルで観光客をサポートできるような、地域の資源に触れられるような情報発信が大事ではないか。

(質問)

ワンセグ対応のカーナビでもコンテンツが見られるということによいか。

(事務局回答)

電波を受信できるエリア内であれば、カーナビでも受信可能。

(意見)

都会からの観光客は問題ないかと思うが、地元の高齢者等については使い方を教える等のサポートが必要かと考える。

(意見)

提供するコンテンツとして、例えば冬場は非常に天気が変わりやすいので、気象を中心とした細かな生活情報などが提供できれば、地元住民にも観光客にも役立つのではないかと。せっかく初のエリアワンセグ実証実験なのだから、コンテンツの内容について、イベントがあることは予めわかって来ている観光客等にも役立つ情報は何かといったことをもう少し詰めた方がよいのではないかと。

⑥ 今後の検討に向けた提案の募集について

(事務局より資料1-7に基づき説明)

質問・意見

(意見)

実験エリアは珠洲市に限定されたものになるが、輪島、能登、穴水の情報も充実させた形でコンテンツを用意できればと考える。4地域一体のコンテンツができれば非常に魅力的ではないか。確かに冬場は観光客が少ないが、情報発信に力を入れて観光客を誘致したいのはゴールデンウィークや夏場よりもむしろ冬のこの時期であり、今までにない情報発信

をすることで、誘客につなげていければと考える。今年から能登ふるさと博を冬場にも開催することになり、そういった情報も含めたい。

年明けから能登空港をハブにしたバスの実証実験が始まるが、そこでも時刻表等の情報をワンセグなどで常にデータとして見られる形で提供していただければと考える。

⑦ 自治体アンケート調査、関係者ヒアリング調査について

(事務局より資料1-8に基づいて説明)

質問・意見

(質問)

設置要綱にある「国の支援や規制のあり方」については、アンケートの中で聞くのか、それとも研究会の場でご意見を伺うのか

(事務局回答)

研究会の場で議論していただいてもよいし、アンケート提出時に記載いただいてもかまわない。

研究会の成果として、具体的なプロジェクトを一つ、二つでも提示できればと考える。周波数の有効活用のあり方という視点でも、大いに検討いただきたい。

⑧ 意見交換

(意見)

先行事例の紹介が色々あったが、奥能登でうまくまわしていくにはそれらをいかに複合的に組み合わせるかが重要。また、住民の皆さんがどう意識付けをして参加していくか、我々既存メディアが協力して、ワンセグに興味がないような方にも如何に実証実験を周知するかといったことを同時に検討していく必要がある。

(意見)

従来の物見遊山型の観光だけではなかなか観光客の方に宿泊滞在していただかず、もっと地元で長く滞留して観光を満喫していただくにはということで、体験型観光について検討している。ようやく努力が実りつつあるが、今後反響が増えた場合珠洲市だけではキャパシティに限界があり、二市二町で連携を図っていきたい。この機会を単なる実験で終わらせずに、能登からの情報発信が今後も定着して続いていくようご支援願いたい。

(意見)

住民の皆さんも納得でき、メリットを享受できるような実証実験にするよう、これから我々構成員で検討し、ピンチをチャンスに変えていまいとめにする必要がある。

⑨ 事務連絡

第二回会合は2月下旬に珠洲市にて開催予定